

1 年上巻

内容解説資料

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
4 月	はるが きた 2 時間（話・聞②） ◎互いの話に関心をもつことができる。（思・判・表 A(1)オ） ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■絵を見て話したり応答したりする。 ☆学校生活（生活科）	1 ↘ 2	1 P0-3 の挿絵を見て、何をしているのか、気づいたことや想像したことを話す。 2 P4-7 の挿絵を見て、気づいたことや想像したことを言ったり、絵の中の人物になりきって話したりする。 3 P8 を教師に合わせて声に出す。想像したこと等を話す。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもっている。（A(1)オ） 【態】進んで友達の話に関心をもち、これまでの経験をいかして話したり応答したりしようとしている。
4 月	さあ はじめよう			
	おはなし ききたいな 2 時間（読②） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表 C(1)オ） ■読み聞かせを聞いて楽しむ。	1 2	1 教科書の絵を見て、読み聞かせをしてもらった体験を想起し、自分の好きな本を発表する。 2 教科書で紹介されている本の読み聞かせを聞き、感想を発表する。 3 教師の選んだ本や、読んでもらいたい作品を選んで、読んでもらう。 4 読み聞かせを聞いて、本や作品の内容について感想を発表する。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ） 【思・判・表】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ） 【態】積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの経験をいかして読み聞かせを楽しもうとしている。
	なんて いおうかな 2 時間（話・聞②） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表 A(1)ア） ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。（知・技(1)キ） ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。（思・判・表 A(1)ウ） ■場面に応じた言葉や動作を考えて、伝え合う。 ☆先生や友達などの多くの人と親しみをもって関わって学校生活を楽しむことや、場に応じた挨拶に関わる題材（道徳）	1 ↘ 2	1 P12-13 の絵を見て、何をしてどんな話をしている場面なのか出し合う。 2 それぞれの場面に合った言葉や動作を考えてやり取りしたり、発表したりする。 ・教師に対する言葉遣いと友達どうしの言葉遣いの違いを考える。	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。（(1)キ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（A(1)ウ） 【態】経験を基に積極的に言うことを考え、学習課題に沿って自分の考えを伝えようとしている。
	かく こと たのしいな 1 時間（知・技①） ◎平仮名を読み、書くことができる。（知・技(1)ウ） ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くことができる。（知・技(3)ウ） ■正しい姿勢や鉛筆の持ち方を意識して書く。 ☆正しい姿勢と鉛筆の持ち方（書写）	1	1 P14 の唱え歌を唱えながら、鉛筆の正しい持ち方を知る。 2 P15 の唱え歌を唱えながら、正しい姿勢を知る。 3 正しい鉛筆の持ち方や正しい姿勢に気をつけて P14-15 の挿絵をなぞる。 4 一画の平仮名「く」「つ」を書く。 5 ワークシートを使って練習する。	【知・技】 ・平仮名を読み、書いている。（(1)ウ） ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書いている。（(3)ウ） 【態】正しい姿勢や鉛筆の持ち方で書くことに粘り強く取り組み、自分なりに、字を書く際に気をつけたいことを見つけようとしている。
	どうぞ よろしく 3 時間（話・聞②、書①） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表 A(1)ア）	1	1 P16 を見て、友達をたくさん増やすために、自己紹介をし合うことを知る。 2 「い・ち」と組や自分の名前を平仮名で書く。 ・姿勢や鉛筆の持ち方を唱え歌で確認しながら P17 に自分の名前を書く。 ・分からない文字は、教師にきく。	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。（(1)キ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことな

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	○経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。(知・技(1)キ) ■名前カードを使って友達と交流する。 ☆互いを知り、新しい仲間をつくる題材(生活科) ☆好きなものの絵を描く活動(図画工作)	2 3	3 名前カードを書く。 ・カードに自分の名前を丁寧に書く。(好きなものの絵等を描いてもよい。) 4 名前カードを見せ合い、交流する。 ・挨拶、名前、好きなもの等を伝え合い、たくさんの友達と交流する。	どから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に自分の名前を書いたり好きなものを考えたりし、これまでの経験をいかして友達と交流しようとしている。
	こんな もの みつけたよ 2時間(話・聞②) ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。(知・技(1)キ) ■見つけたものや思ったことを友達に紹介する。 ☆学校探検(生活科)	1 ゝ 2	1 校内で見つけたものを思い出して、紹介したいことを考えながら絵に描く。 2 絵を使って、自分で見たことや見て思ったことを友達に紹介する。 ・みんなの前で話すときの言葉遣いを考えて話す。	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。(1)キ 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) 【態】紹介したい事柄を積極的に選び、学習課題に沿って見つけたものをより分かりやすく紹介しようとしている。
	うたに あわせて あいうえお 2時間(知・技②) ◎姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。(知・技(3)イ) ■音読する。 ■正しい筆順で文字を書く。 ☆歌を通して正しい発声を身につける題材(音楽)	1 2	1 P20-21のあいうえおのうたを、いろいろな方法で音読する。 ・姿勢、口形、発声、リズム等に気をつける。 ・全員、グループ等いろいろな形態で読む。 ・体を動かしたり、手足でリズムをとったりして読む。 2 P22-23の「あ、い、う、え、お」の文字を指でなぞる。 ・青い部分が一画目であることに気をつける。 ・P22-23のマス目に、筆順に気をつけて「あ、い、う、え、お」を書く。 3 これまでに習った文字を使って言葉を作り、ノートに書いて言葉集めをする。	【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ 【態】進んで姿勢や口形、発声や発音に注意し、学習課題に沿って音読しようとしている。
	ことばの たいそう 各配当時間を15分ずつなどに分割して扱ってもよい。			
5月	こえに だして よもう 1時間(読①) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ■詩を音読する。 ■想像を広げながら詩を読む。	1	1 詩を声に出して読む。 ・声の大きさやリズムを工夫してはっきりと読む。 2 朝日や海の様子について、想像したことを話す。 3 言葉の響きやリズムに気をつけながら、暗唱する。	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【態】進んで詩に描かれた様子を想像し、これまでの学習をいかして音読しようとしている。
	よく きいて、はなそう 2時間(話・聞②) ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあるこ	1 ゝ 2	1 P26-27を読み、教師の説明を聞いて、活動内容を 知る。 2 友達とペアになり、好きな遊びについて聞く。 ・P27の挿絵を参考に、話し手を見て話を聞くことを知る。 3 分かったことや感想を、声の大きさや速さに気をつけて全体に知らせる。 4 聞き手と話し手を交代して、2の活動をする。 5 教師と活動の振り返りをする。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ)

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	とに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ■応答したり、感想を伝えたりする。			・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) 【態】興味をもって進んで友達の話の聞き、より伝わる話し方を考えながら、みんなに知らせようとしている。
	ことばを さがそう 2時間 (知・技②) ◎音節と文字との関係に気づくことができる。(知・技(1)イ) ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ■言葉集めをする。	1 ゝ 2	1 P28を見て、「あ」で始まる言葉はいろいろあることを知る。 ・手を打ちながら1音節1文字であることに気づき、2文字3文字4文字の言葉等があることを知る。 ・「あ」で始まる教科書以外の言葉集めをする。 2 「い」「う」「え」「お」など、既習の平仮名で始まる言葉集めをする。 ・手を打ちながら、文字数を意識する。 ・これまでに習った文字を使って言葉を見つけて、ノートに書く。	【知・技】 ・音節と文字との関係に気づいている。(1)イ) ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【態】語句の音節と文字との関係を積極的に理解し、これまでの学習をいかして言葉を集めようとしている。
5月	はなの みち 6時間 (読⑥) ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ■想像を広げながら物語を読む。 ■物語の音読をする。 ☆動植物や自然に親しむことに関わる題材 (道徳) ☆植物の種をまき育てることに関わる題材 (生活科)	1 ゝ 2 5 6	1 教科書の挿絵を手がかりに、場所や季節、登場人物のイメージを膨らませる。 2 教師の範読を聞いて、内容の大体を知る。 ・教師の後について全文を音読する。 3 お話の内容を確かめながら、場面の様子や「くまさん」の行動について考える。 ・挿絵と本文を対応させながら、登場人物の行動や様子を考える。 ・挿絵のワークシートにぬり絵をしながら、季節に気づいたり場面の様子について想像を広げたりする。 4 好きな挿絵の場面を選んで音読する。 ・二人組で音読を聞き合い、感想を伝え合う。	【知・技】 ・敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【態】興味をもって進んでお話の内容を捉え、学習課題に沿って友達と協力して音読しようとしている。
5月	としょかんへ いこう 2時間 (知・技②) ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ■学校図書館で好きな本を選んで読書に親しむ。 ☆好きな本を見ついたり、司書の方にきいたりする活動 (図書館活用)	1 ゝ 2	1 学校図書館へ行く。 ・図書館巡りをして、図書館の様子を知る。 ・たくさんの本があることに気づく。 2 学校図書館での決まりについて考える。 ・みんなの本であることに気づき、大切に扱うことや静かに読むこと等の約束を知る。 ・読み終わったら元の場所に返すことを知る。 3 読みたい本を選んで、読書に親しむ。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ) 【態】積極的に図書館について知ろうとし、学習課題に沿って読みたい本を見つけようとしている。
5月	かきと かぎ 2時間 (知・技②) ◎平仮名を読み、書くことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	1 ゝ 2	1 P40の唱え歌を、いろいろな言い方で楽しく読み、濁音に気づく。 2 P41にある単語を、一語一語唱えながら濁音と半濁音の有無を確認する。 ・清音と濁音と半濁音の平仮名をノートに書く。 3 濁音と半濁音を含む単語を見つけてノートに書く。 4 短い唱え歌を作って、まとめをする。	【知・技】平仮名を読み、書いている。(1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】進んで濁音を含む言葉を見つけ、これまでの学習をいかして文字で表そうとしている。

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
5月	ぶんを つくろう 4時間（書④） ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○句点の打ち方を理解して文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■主語と述語を意識して文を書く。	1 2 3 4	1 P42の挿絵を見ながら、二つの文を読む。 ・主語や述語に注意し、「――が――。」「――は――。」の文型であることに気づく。 ・主語・述語・句点を意識して、P42の文を視写する。 2 P43の挿絵を見て、「――が――。」「――は――。」の文で表し、ノートに書く。 3 日常生活から、「――が――。」の文をノートに書く。	【知・技】 ・句点の打ち方を理解して文の中で使っている。（(1)ウ） ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ） 【態】語と語との続き方を丁寧に確かめながら、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
5月	ねこと ねっこ 2時間（書②） ◎促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■促音や濁音のある言葉を使って文を書く。	1 2	1 P44の唱歌をいろいろな言い方で楽しく読み、促音に気づく。 2 P45を見て、一語一語唱えながら促音の読み方を確認する。 3 P45を見て、促音のある言葉とない言葉を比べながらノートに書く。 4 促音や濁音のある言葉と助詞「を」を使って、簡単な文を書く。	【知・技】促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ） 【態】進んで促音や濁音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
6月	わけを はなそう 2時間（話・聞②） ◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■自分の考えとそのわけを話す。 ☆わけを説明する題材（生活科・算数）	1 2	1 質問に対して、答えとその理由を伝える言い方を確認する。 ・P47の挿絵を見ながら、質問する人と答える人の二人組になって、P46のやり取りを声に出して読む。 2 P47の挿絵を見ながら、二人組で学んだ話型を使って伝え合う。 3 小学校の生活等で好きなことや楽しみなことを、学んだ話型を使って話す。 ・二人組で交流した後、グループや全体で発表する。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。（A(1)イ） 【態】話す事柄の順序を進んで考えながら、これまでの学習や経験をいかして考えとわけを話そうとしている。
6月	おばさんと おばあさん 2時間（書②） ◎長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■長音のある言葉を使って文を書く。	1 2	1 P48の唱歌をリズムに気をつけて読む。 ・長音になることで言葉の意味が変わるものがあることに気づく。 2 P49の長音のある言葉を読んだり書いたりする練習をする。 3 長音のある言葉を集めてノートに書いたり、友達と交流したりする。 4 長音のある言葉を使って文を書く。 ・「――へ――。」という助詞「へ」を使った文を書く。	【知・技】長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ） 【態】進んで長音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
6月	あいうえおで あそぼう 3時間（知・技③） ◎平仮名を読み、書くことができる。（知・技(1)ウ） ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことがで	1 2	1 P50-51の言葉遊び歌を読む。 ・調子のよい言葉のリズムに気づき、節を付けて歌うように読む。 ・何度も読んで、言葉遊びの歌の仕組みに気づく。 2 自分たちで「あいうえおのうた」を作る。 ・P50-51の吹き出しやP129-131の平仮名表を	【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（(1)イ） ・平仮名を読み、書いている。（(1)ウ） ・長く親しまれている言葉遊びを

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	きる。(知・技(3)イ) ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ■言葉遊び歌を楽しむ。	3	参考にして好きな行を作り、発表し合っ楽しむ。 3 P52-53 の五十音表を読む。 ・口形に気をつけて縦や横に読んだり、各行や列の音の特徴に気をつけて読んだりする。 ・区切ったり伸ばしたりいろいろな声の大きさで読んだりする。 ・P52-53 の「しりとり」を参考にして、しりとり遊びを楽しむ。	通して、言葉の豊かさに気づいている。(3)イ) 【態】進んで平仮名の五十音を確かめ、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。
6月	つぼみ 8時間 (知・技②、読⑥) ◎事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表 C(1)ア) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表 C(1)ウ) ■文章を読んで分かったことや考えたことを伝え合う。 ☆動植物や自然に親しむ題材 (道徳) ☆図鑑でいろいろな花のつぼみを見つめる活動 (図書館活用)	1 2 3 4 5 6 7 8	1 学習の見通しをもつ。 ・花やつぼみについて、知っていることを出し合い、興味をもつ。 ・P54 の写真を見て、三つのつぼみからそれぞれどんな花が咲くかを予想して絵に描いてみる。 2 全文を読み、内容の大体を捉える。 ・教師の範読を自分の予想と比べながら聞き、内容の大体を知る。 ・本文と写真とを対応させながら、3種類の花のつぼみについて取り上げられていることを確かめる。 ・それぞれのつぼみについて、「問い」と「答え」を確認し、「答え」の後に、詳しく説明している部分があることを確かめる。 ・「問い」と「答え」という文章形式を確かめながら、二人組で音読する。 3 いちばん興味をもったつぼみについて、わけとともに伝え合う。 4 学習を振り返る。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) 【態】積極的に説明の順序を捉えながら文章を読み、学習課題に沿って分かったことや考えたことを伝えようとしている。
6月	おもちゃと おもちゃ 2時間 (書②) ◎拗音の表記、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表 B(1)ウ) ■拗音のある言葉を使って文を書く。	1 2	1 P62 の唱歌をリズムに気をつけて読み、「おもちゃ」と「おもちゃ」の言葉の違いに気づく。 2 P63 の拗音のある言葉を読んだり書いたりする練習をする。 3 拗音のある言葉を集めて、ノートに書いたり、友達と交流したりする。 4 拗音のある言葉を使って文を書く。 ・語と語の続き方に気をつけて文を書く。	【知・技】拗音の表記、句点の打ち方を理解して、文の中で使っている。((1)ウ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ) 【態】進んで拗音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
6月	おおきく なった 4時間 (書④) ◎観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。(思・判・表 B(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ) ■観察したことを記録する文を書く。 ☆植物を観察する活動 (生活科) ☆観察時に写真を撮影 (ICT活用)	1 2 3 4	1 学習の見通しをもつ。 ・生活科で育てている植物の様子を想起し、「よくみてくわしくかく」という学習課題を確認する。 2 どんな観点で観察したいかを出し合う。 ・出し合ったものと P64 の観点を合わせて整理し、クラス全体で共有する。 3 観察記録の書き方を知る。 ・P64-65 の二つの作例を読み、書かれている観点と書き方の共通点・相違点を見つける。 4 観察記録を書く。 ・生活科で育てている植物を観察し、観点を想起して気づいたことをメモしたり絵に描いたりする。 ・メモを見て、二つの作例の書き方から選んで観察記録を書く。 ・P124 を参考に、横書きのカードの書き方を知り、生活科の学習にもいかす。 5 書いたものを友達と交流する。 ・交流しながら、友達の観点や書き方との共通点・	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。(B(1)ア) 【態】植物をさまざまな観点から積極的に観察し、これまでの学習をいかして観察したことを記録しようとしている。

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
			相違点に気づく。 6 学習を振り返る。 ・いろいろな観点から観察することで、様子を詳しく記録できることを確かめる。	
6 月	おおきな かぶ 6 時間（読⑥） ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表 C(1)イ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表 C(1)エ） ■物語を楽しんで音読したり、劇遊びをしたりする。 ☆人との関わりで協力したり親切にしたりする題材（道徳） ☆練習を撮影した動画をいかした振り返り（ICT活用）	1 2 3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・教師の範読を聞いて、内容の大体を捉える。 ・P76-77 を見て、これからの学習に意欲をもつ。 ・教師の後について全文を音読する。 2 お話の設定と展開を捉える。 ・登場人物と増えていく順序を確かめる。 ・繰り返しの言葉や副詞に着目して読む。 ・繰り返しのおもしろさやリズムを楽しんで音読する。 3 グループで役を決めて登場人物になりきって音読する。 ・動作やせりふを考えて楽しむ。 4 登場人物になりきって劇遊びをする。 ・グループ内で互いのよさや改善点を助言し合いながら練習する。 5 音読や劇の発表をする。 6 学習の振り返りをする。 ・繰り返しや言葉の響きやリズムを楽しみながら、学習したことを確かめる。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） 【態】積極的に登場人物の行動を捉え、これまでの学習をいかして音読や劇遊びをしようとしている。
7 月	はをへを つかおう 3 時間（書③） ◎助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表 B(1)ウ） ■助詞「は」「を」「へ」を使って文を書く。	1 2 3	1 P78 の唱え歌を、リズムに気をつけて読む。 ・教師の範読を聞いてから、いろいろな読み方で繰り返し音読する。 ・「は」「を」「へ」の読み方に注意する。 2 唱え歌を視写する。 ・「わ」と「は」、「お」と「を」、「え」と「へ」の使い方に注意する。 3 P79 の文型に合わせて文を作り、発表し合う。	【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】進んで助詞の使い方を確かめながら、学習課題に沿って文を作ろうとしている。
7 月	すきな こと、なかに 7 時間（話・聞③、書④） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表 A(1)ア） ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表 B(1)ウ） ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。（知・技(1)キ） ○相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思・判・表 A(1)イ） ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア）	1 2 3 4 5 6 7	1 学習の見通しをもつ。 ・教科書を見て、「すきなことをともだちにしようかいしょう」という学習課題を確認する。 2 好きなことを、グループの友達に紹介する。 ・いちばん好きなことを選んで紹介の準備をする。 ・聞いたことについて、感想を言ったり理由を尋ねたりする。 ・理由を言うと、好きなことが相手によく伝わることに気づく。 3 自分が好きなこととその理由を書く。 ・P82 の作例を視写して、名前の書き方や始まりを 1 字下げで書くことを知る。 ・視写したものを参考にして、2 文で書く。 ・主語と述語の関係や、句読点の打ち方、理由の書き表し方に注意する。 4 書いた文章を友達と読み合って、感想を交流する。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。（(1)キ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。（A(1)イ） ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しな

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	■「好きなこと」を紹介する。 ☆好きなことを知らせる活動(生活科)			がら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】粘り強く伝えたいことや表し方を考え、これまでの学習をいかして自分が好きなものとその理由を紹介しようとしている。
7月	おむすび ころりん 5時間(読⑤) ◎昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ■昔話を音読したり演じたりする。 ☆練習を撮影した動画をいかした振り返り(ICT活用)	1 2 3 4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・これまでに学んだ音読について、おもしろかったところを発表する。 ・「おおきな かぶ」での音読や劇遊びを思い出し、音読発表会をすることを知る。 2 全文について、教師の範読を聞く。 ・内容の感想を発表する。 ・繰り返しや言葉のリズム(七五調)に気づく。 3 お話の内容を捉える。 ・全体で音読練習をする。 ・挿絵を基に、場面の様子や「おじいさん」の行動を読む。 4 グループで音読の練習をする。 ・役割を決めて、役になりきって音読する。 ・音読に合わせて動作をつけて楽しんで演じる。 5 音読発表会を開く。 6 学習を振り返る。 ・他のグループの読み方でよかったところを伝えたり、自分たちのグループを振り返ったりする。	【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) ・昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(3)ア) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【態】進んで昔話の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読しようとしている。
7月	こんな ことが あったよ 6時間(書⑥) ◎経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ■出来事や経験を報告する文章を書く。	1 2 3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・最近楽しかったことを思い出して発表し合う。 ・P92-93を見て、「たのしかったことを、ぶんしようにかいてよみあおう」という学習課題を確認する。 2 P92の絵日記を参考に、書き方を知る。 ・文章に書く内容(したこと、見たこと、聞いたこと、思ったこと)を確認する。 3 経験したことを知らせる文章を書く。 ・伝えたい経験について、詳しく思い出す。 ・経験したことを絵に描く。 ・「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どうした」等が分かるようにするとよいことを知る。 4 書いたものを読み合い、感想を交流する。 5 学習を振り返る。 ・自分の経験を文章で表し、友達に紹介したことを確認する。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ) 【態】積極的に出来事や経験を思い出し、これまでの学習をいかして日記に書こうとしている。
7月	としかんと なかよし 2時間(知・技②) ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。(知・技(3)エ) ■図書館に行き、好きな本を選んで読書に親しむ。 ☆好きな本を見つけたり、司書の方にきいたりする活動(図書館活用)	1 2	1 図書館に行き、読みたい本を見つける。 ・読みたい本の見つけ方を知る。(表紙や題名や本の中身を見る、司書の先生にきく等) 2 読みたい本を選んで読む。 ・おもしろいところや心に残るところを見つけながら読む。 3 本を読み終わったら、P95を参考にして、読書記録をつける。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ) 【態】積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの学習をいかして本を選ぼうとしている。
9月	ことばの たいそう 各配当時間を15分ずつなどに分割して扱ってもよい。 こえを あわせて よもう	1	1 詩を声に出して読む。	【知・技】語のまとまりや言葉の響き

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
9月	かたかなを みつけよう 2時間（知・技①、書①） ◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。（思・判・表B(1)ウ） ■身の回りから片仮名で書く言葉を見つけて、読んだり書いたりする。	1 2	1 片仮名を書く。 ・P110の唱え歌を音読し、その中から片仮名を見つけてノートに書く。 ・P111で、片仮名の長音、拗音、促音、濁音の書き方を確かめる。 2 身の回りから片仮名で書く言葉を探す。 ・探した言葉を、長音、拗音、促音、濁音に気をつけながら、ノートに書く。 ・P126-127の片仮名表を参考に、片仮名で書く言葉の入った簡単な文を書く。	【知・技】 片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】 「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。（B(1)ウ） 【態】 身の回りから片仮名で書く言葉を進んで見つけ、これまでの学習をいかして簡単な文を書こうとしている。
9月	よんで たしかめよう うみの かくれんぼ 8時間（読⑧） ◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ■説明する文章を読み、分かったことを伝える。 ☆自然に親しむ題材（道徳） ☆他の生き物の隠れ方を図鑑等で調べる活動（図書館活用）	1 2 3 4 6 7 8	1 学習の見通しをもつ。 ・「つぼみ」の学習で「問い」と「答え」の文があったことを思い出す。 ・P112-113の写真を見て、海にはたくさんの生き物がいることを経験や知識を基に話し合い、教材に興味をもつ。 ・「いきものがどんなかくれんぼをしているかをしらべて、ともだちにしろせよう」という学習課題を確認する。 2 教材文を読む。 ・最初の「問い」で問われていることを確かめる。 ・3種類の海の生き物が出てくることを確かめる。 3 生き物の隠れる場所と隠れる方法を確かめる。 ・1文目に海の生き物とその隠れ場所、2文目に体の仕組みや機能、3文目に隠れる方法という順序で書かれていることに気づく。 ・内容や構成について気づいたことを交流し、生き物ごとに、読み取ったことをカードにまとめて確かめる。 4 P117の図鑑や科学読み物等から、他の生き物の隠れ方を調べて友達と交流する。 ・興味をもった生き物について「1なにが、どこに 2かくれるためのからだのつくり 3かくれんぼのしかた」を調べる。 ・調べて見つけたことを、順序を考えてカードに書く。 ・P112と同様の問いかけをしながら、友達と交流する。 5 学習を振り返る ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（C(1)ア） ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（C(1)ウ） 【態】 粘り強く文章の中で大事な言葉を押さえながら読み、学習課題に沿って分かったことを伝えようとしている。
9月	かずと かんじ 4時間（知・技②、書②） ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書くことができる。（知・技(1)エ） ・語と語との続き方に注意しながら文を書き表すことができる。（思・判・表B(1)ウ） ■数え歌を書く。	1 3 4	1 教科書の数え歌をリズムカルに楽しく読む。 ・数に合わせて、子ブタの鳴き声を入れて読む。 2 数を表す漢字を練習する。 ・読み方が複数あることを知る。 3 身の回りにあるものを数えてノートに書く。 4 P120-121を参考に、折り紙、鉛筆、車などの数え歌を作って友達と読み合う。	【知・技】 第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書いている。（(1)エ） 【思・判・表】 「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。（B(1)ウ） 【態】 積極的に数え方に興味をもち、これまでの学習や経験をいかして漢字を使って数え歌を書こうとしている。

1 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
10 月	おもいうかべながら よもう			
	くじらぐも 8 時間（知・技①、読⑦） ◎かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表 C(1)エ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■読んで想像したことを伝え合う。	1 く 2 3 く 6 7 く 8	1 扉の詩を声に出して読み、目次を見て下巻の見通しをもつ。 2 学習の見通しをもつ。 ・題名から「くじらぐも」を想像することで、物語の様子を「おもいうかべながらよもう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 3 教材文を読み、内容の大体を捉えて、様子を思い浮かべる。 ・挿絵を手がかりに想像を広げながら、教師の範読を聞き初発の感想を交流する。 ・様子を想像して、かぎ（「 」）のところをどのように音読するか考える。 4 読んで想像したことを伝え合って共有する。 ・友達が想像したことを聞いて、思ったことを発表する。 5 話した言葉を、かぎ（「 」）を使って書く。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） 【態】積極的に想像力を広げて物語を読み、これまでの学習をいかして想像したことを友達に伝えようとしている。
10 月	まちがいを なおそう 2 時間（書②） ◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正すことができる。（思・判・表 B(1)エ） ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。（知・技(1)ウ） ■正しい表記で文章を書く。	1 く 2	1 これまでの学習を振り返る。 ・文章を読み返して間違いに気づいた経験や、日常的に文章を読み返す習慣がついているかを振り返る。 2 文章の中から表記の間違いを見つけて直す。 ・P19 の文章例を読み、文字の間違いを直す。 ・友達と交換し、確認し合う。 ・「は」「へ」「を」を使って文章を書き、読み直す。 ・友達と交換し、確認し合う。	【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正している。（B(1)エ） 【態】進んで文章を見直し、これまでの学習をいかして適切な表記に正そうとしている。
10 月	くわしく かこう			
	しらせたいな、見せたいな 10 時間（書⑩） ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。（思・判・表 B(1)ア） ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表すことができる。（思・判・表 B(1)ウ） ■見つけたことを記録して伝える。 ☆動植物の観察記録文を書く活動（生活科） ☆知らせたい対象を端末で撮影（ICT活用）	1 2 く 3 4 く 8	1 学習の見通しをもつ。 ・P20 を読み、「学校にいる生きものや、学校で見つけたものをよく見て、いえのひとにしらせる文しょうをかこう」という学習課題を確認する。 ・教材文を読んで学習の流れを確かめ、知らせたいものを考える。 2 家の人に知らせたいものを決め、絵や見つけたことをカードに記録する。 ・知らせたいものをよく見て、P21 のカードを参考に、絵の周りに色や形、触った感じ、様子などを短い言葉で書く。 3 見つけた事柄を文章に書く。 ・P21 のカードと P22 の作例を比べ、見つけたことをどのように文章に表すのかを考える。 ・短冊カードを用意するなどして、見つけた事柄を一つずつ文にする。 ・カードを並べ替えながら文章の順序を考える。 ・考えた順序に沿って文章を書く。 4 文章を声に出して読み返す。 ・句読点や「は」「へ」「を」が正しく使えているか推敲する。 5 書いた文章を読んでもらう。 ・家の人に読んでもらい、感想をもらう。 ・知らせたいことを伝える文章を書いて、家の人	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。（B(1)ア） ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表している。（B(1)ウ） 【態】知らせたいものを丁寧に観察し、学習の見通しをもって見つけたことを文章にして伝えようとしている。

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
		9 ↘ 10	に読んでもらった感想をまとめる。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	
10月 ↘ 11月	かん字の はなし 6時間（知・技③、書③） ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■漢字を使った短文を書く。	1 ↘ 2 ↘ 3 ↘ 4 ↘ 5 ↘ 6	1 教科書を読み、漢字の成り立ちを知る。 ・P24-25の挿絵を見て、何を表す絵が描いてあるかを確かめる。 ・絵と漢字を見比べて、漢字の成り立ちを知る。 2 教材文に出ている漢字の書き方を学び、書き順や字形に気をつけて練習する。 ・絵からできている漢字の意味を考える。 ・ある事柄を示す印からできている漢字の意味を考える。 3 例文にある絵を漢字に直し、ノートに視写する。 4 学習した漢字を使って、短文を作る。 ・作った文を友達と読み合い、交流する。 ・互いに読み合い、漢字や文の書き方に間違いがないかを確かめる。 5 学習を振り返る。 ・漢字の成り立ちについて知ったことを振り返る。	【知・技】 第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】 「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】 積極的に漢字の成り立ちに興味をもち、学習課題に沿って漢字を使った短い文を書こうとしている。
10月 ↘ 11月	ことばを たのしもう 2時間（知・技②） ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ○音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■詩や早口言葉を楽しむ。 ☆他にもおもしろい発音の詩を探す活動（図書館活用）	1 ↘ 2	1 濁音・半濁音・促音・撥音の入った詩のおもしろさを味わいながら声に出して読む。 2 早口言葉を調子よく、正確に唱える。 3 他にもおもしろい発音の詩などを探して、声に出して読み合う。	【知・技】 ・音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話している。（(1)イ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。（(3)イ） 【態】 積極的に詩や早口言葉を楽しみ、これまでの学習や経験をいかして、発声や発音に気をつけながら声に出して読もうとしている。
11月	せつめいする 文しょうを よもう じどう車くらべ 7時間（読⑦） ◎事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ■事物の仕組みを説明した文章を読み、分かったことをまとめる。	1 ↘ 2 ↘ 5 ↘ 6 ↘ 7	1 学習の見通しをもつ。 ・P30の挿絵を見て、それぞれの車がどんな仕事をするのか、そのためにどんなつくりになっているのか、考えを出し合う。 ・「いろいろな車のしごととつくりがどんなふうにしょうかいされているかかんがえながら、せつめいする文しょうをよもう」という学習課題を確認する。 2 教材文を読む。 ・文章全体の構造を捉える。（問いと答えの形式・三つの事例を挙げて説明） ・各事例の「しごと」と「つくり」を見分け、二つの事柄の順序や、「そのために」でつながっていることを押さえる。 ・事例を比べ、車の「つくり」は、「しごと」によって変わることを押さえる。 3 説明のしかたについて確かめる。 ・身近な自動車から順に登場していたことを押さえる。 4 はしご車の「しごと」とそのための「つくり」につ	【知・技】 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（C(1)ア） ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（C(1)ウ） 【態】 進んで説明における順序を考えながら読み、自分が説明するときにいかしたいことを見つけようとしている。

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
			いてまとめる。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	
11 月	せつめいする 文しょうを かこう じどう車ずかんを つくろう 5 時間（書⑤） ◎事柄の順序に沿って簡単な構成を考 えることができる。（思・判・表 B(1) イ） ○事柄の順序など情報と情報との関係 について理解することができる。（知・技(2)ア） ■「じどう車しょうかいカード」を書 く。 ☆自動車について書かれた図鑑等を選 んで読む活動（図書館活用）	1 2 3 4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・教材「じどう車くらべ」の学びを思い出す。 ・一人一人が「じどう車しょうかいカード」を書 き、「クラスでまとめて、じどう車ずかんをつく ろう」という学習課題を確認する。 2 「じどう車しょうかいカード」を作る。 ・図鑑などで知った自動車の中から紹介したい自 動車を選ぶ。 ・説明の観点に着目しながら、「しごと」と「つく り」をノートに書く。 ・カードに文章を清書し、できたら、挿絵用の絵 や写真のコピーを添える。 3 カードを交換して読み合う。 ・友達の作ったカードを読み、感想を伝え合う。 ・クラスで図鑑としてまとめる際、どんな順番で ページに並べるか話し合う。 4 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るととも に、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】事柄の順序など情報と情報 との関係について理解してい る。（(2)ア） 【思・判・表】「書くこと」において、 事柄の順序に沿って簡単な構 成を考えている。（B(1)イ） 【態】分かりやすい説明のしかたにつ いて興味をもち、説明の順序に 気をつけながら、見通しをもつ て自動車図鑑を作ろうとして いる。
11 月	かたかなを かこう 2 時間（知・技①、書①） ◎片仮名を読み、書くとともに、文や 文章の中で使うことができる。（知・ 技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意しながら、 書き表し方を工夫することができ る。（思・判・表 B(1)ウ） ■片仮名で書く言葉を集め、短文を書 く。	1 2	1 身近なものの中で、片仮名で表記する語を出し合 う。 2 教科書にある片仮名で書く言葉をノートに書く。 ・片仮名の長音・促音・拗音の表し方を確認する。 3 片仮名で書く言葉を集め、短文を作る。 4 作った短文を友達と交流する。	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、 文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、 語と語との続き方に注意しな がら、書き表し方を工夫してい る。（B(1)ウ） 【態】片仮名の表記のしかたに気をつ けながら、これまでの学習をい かして文の中で片仮名を使おう としている。
11 月	ともだちと はなして、おはなしを かこう どんな おはなしが できるかな 6 時間（話・聞②、書④） ◎互いの話に関心をもち、相手の発言 を受けて話をつなぐことができる。 （思・判・表 A(1)オ） ◎文章に対する感想を伝え合い、自分 の文章の内容や表現のよいところを 見つけることができる。（思・判・表 B(1)オ） ○句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使 い方を理解して文や文章の中で使う ことができる。（知・技(1)ウ） ○文の中における主語と述語との関係 に気づくことができる。（知・技(1) カ） ○話し手が知らせたいことや自分が聞 きたいことを落とさないように集中 して聞き、話の内容を捉えて感想を もつことができる。（思・判・表 A(1) エ）	1 2 3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・「どうぶつになったつもりでともだちとはなし て、おはなしをつくろう」という学習課題を確認 する。 2 P40-41 の挿絵を参考に、登場人物を決める。 3 友達と役割を決めて、動物になったつもりで話を する。 ・友達と話したことをノートにメモする。 ・「たいせつ」で、友達の話の聞くときに気をつけ ることを確認する。 4 友達と話したことを基に、お話を考えて文にする。 ・P42 を参考に、友達と話したことを会話の形に する。 ・書いたお話を読み返す。 5 書いたお話を読み合い、感想を交流する。 ・「たいせつ」で、交流の観点を確認する。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るととも に、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・句読点の打ち方、かぎ（「 」） の使い方を理解して文や文章 の中で使っている。（(1)ウ） ・文の中における主語と述語との 関係に気づいている。（(1)カ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、 話し手が知らせたいことや自分 が聞きたいことを落とさない ように集中して聞き、話の内容 を捉えて感想をもっている。 （A(1)エ） ・「話すこと・聞くこと」において、 互いの話に関心をもち、相手の 発言を受けて話をつないでい る。（A(1)オ） ・「書くこと」において、文章に対 する感想を伝え合い、自分の文 章の内容や表現のよいところ

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	■友達と話したことを基にして物語を作る。			を見つけている。(B(1)オ) 【態】物語を完成させるという見通しをもち、進んで友達に質問し、お話を書こうとしている。
11月 と 12月	すきなところを見つけよう たぬきの糸車 8時間(読⑧) ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ■物語の好きなところを見つけて、そのわけを話し合う。	1 2 3 4 5 6 7 8	1 学習の見通しをもつ。 ・教師の範読を聞いて好きなところを見つけ、文章に線を引く。 ・挿絵を手がかりに、内容の大体を捉える。 ・「すきなところとそのわけをみんなにしらせよう」という学習課題を確認する。 2 場面ごとに様子を思い浮かべる。 ・「たぬき」や「おかみさん」と同じ動作を試みる。 ・「たぬき」のしたことを確かめ、そのときの様子を思い浮かべる。 ・「おかみさん」の気持ちを想像する。 3 好きなところとそのわけを友達と話し合う。 4 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。((1)カ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) 【態】場面の様子に進んで着目し、これまでの学習をいかして、好きなところとそのわけを考えようとしている。
12月	日づけとよう日 3時間(知・技①、書②) ◎第1学年に担当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■唱歌を作る。	1 2 3	1 日付歌を唱える。 ・日付歌に出てくる漢字の読み方を学び、日付歌を声に出して練習する。 ・日付歌に出てくる漢字の練習をする。 2 曜日歌を唱える。 ・曜日歌に出てくる漢字の読み方を学び、曜日歌を声に出して練習する。 ・曜日歌に出てくる漢字の練習をする。 3 自分の日付歌、曜日歌を作る。	【知・技】 ・第1学年に担当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】積極的に日付や曜日を表す漢字に関心をもち、これまでの学習をいかして自分でも唱歌を作ろうとしている。
12月	てがみを かこう てがみで しらせよう 6時間(書⑥) ◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)エ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■伝えたいことを手紙に書く。	1 2 3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・手紙を書いたり、もらったりした経験を出し合う。 ・教材文を読み、「うれしかったことやたのしかったことを、てがみに書いてしらせよう」という学習課題を確認する。 2 誰にどんなことを知らせたいか考える。 ・相手と書く題材を決め、必要な事柄を集める。 3 手紙を書く。 ・P58-59の作例を参考に、クラス全員で共通の相手に手紙を書く練習をする。 ・読み返して、書くときに気をつけることを意識して書いているかを確かめる。 ・自分がいちばん知らせたい相手に手紙を書く。 4 学習の振り返りをする。	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。((1)キ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(B(1)エ)

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	☆お世話になった人に手紙を書く活動 (生活科)		- 手紙を書いた感想を交流する。 「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【態】書いた文章を積極的に見直ししながら、これまでの学習をいかして、身近な人に手紙を書こうとしている。
12月	本は ともだち			
	むかしばなしを よもう おかゆの おなべ 8時間(書④、読④) ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ■昔話を読み、感想を伝え合う。 ☆いろいろな昔話を選んで読む活動(図書館活用)	1 2 3 4 5 6 7 8	1 学習の見通しをもつ。 - 知っている昔話や読んでみたい昔話を出し合う。 - P60-61を見て、「いろいろなむかしばなしをよんで、ともだちにしらせよう」という学習課題を確認する。 2 カードの書き方を学習する。 「おかゆの おなべ」を読む。 - お話の好きなところやおもしろかったところなどを伝え合う。 - P73を参考にカードの書き方を確認する。 3 読みたい昔話を選んで読み、カードを書く。 - カードの書き方を再度確かめる。 4 友達のカードを読んで感想を伝え合う。 - カードを読み、さらに物語を読んだり、カードに対する感想を書いたりする。 5 学習を振り返る。 - 昔話を読んで紹介カードを交流し合った学習から、学んだことや感じたことを振り返る。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。 (3)エ) 【思・判・表】 「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【態】積極的に世界の昔話を読み、これまでの学習をいかして感想をカードに書いて伝えようとしている。
1月	ことばの たいそう 各配当時間を15分ずつなどに分割して扱ってもよい。			
	なりきって よもう 2時間(読②) ◎場面の様子など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 (知・技(1)ク) ☆お気に入りの詩を見つける活動(図書館活用) ☆工夫した読み方を端末で動画撮影し、友達と交流(ICT活用)	1 2	1 作者(かたつむり、にじ)の気持ちを想像しながら詩を音読する。 - 読む速度を変えたり、動作化したりして、いろいろな読み方を楽しむ。 2 詩集などからお気に入りの詩を選び、音読する。 - 声に出して詩集を読んだり、友達と気に入った詩を紹介し合ったりしながら、詩を選ぶ。 3 学習を振り返る。	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) 【態】進んで詩の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読を楽しもうとしている。
	くわしく きこう 2時間(話・聞②) ◎身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ) ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ■紹介を聞いて、質疑応答する。 ☆紹介したい本を選ぶ活動(図書館活用) ☆話す練習を動画で撮影(ICT活用)	1 2	1 自分の好きな本を友達に紹介する。 - 教師の本の紹介を聞き、これからの学習に見通しをもつ。 - どの本を友達に紹介するか決める。 - 知りたいことを考えながら聞き、もっと知りたいことを質問する。 2 学習を振り返る。 - 本を紹介し合う活動の振り返りをし、これからも友達と好きなものを紹介し合って、友達のことをもっとよく知っていくように促す。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいく。(A(1)ア) 「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) 【態】積極的に友達の話の聞き、学習の見通しをもって、質問や感想を述べようとしている。
	ことばで あそぼう	1	1 言葉遊びの仕組みを理解する。	【知・技】

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	2時間（知・技②） ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ）	ㄱ 2	・P78-79を見て、言葉遊びのしかたを理解し、ノートに書く。 2言葉遊びを楽しむ。 ・教科書を参考に自分で言葉遊びのルールを決め、言葉遊びの問題を作る。 3問題を出し合う。 ・問題を出し合うことでさまざまなルールの言葉遊びを知り、継続して言葉遊びを続ける意欲をもつ。	・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。（(1)オ） ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。（(3)イ） 【態】積極的に身近なことを表す語句を使った言葉遊びを楽しみ、これまでの学習をいかして語彙を豊かにしようとしている。
1月	くらべて よもう			
	どうぶつの 赤ちゃん 10 時間（読⑩） ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ■書かれていることを比べて読む。 ☆他の動物の赤ちゃんについて書かれた本を読む活動（図書館活用）	1 ㄱ 2 3 ㄱ 6 7 ㄱ 10	1学習の見通しをもつ。 ・いろいろな動物の赤ちゃんの写真を見て、動物の赤ちゃんへの興味・関心をもつ。 ・「どうぶつの赤ちゃんについて、かかれていることをくらべながらよもう」という学習課題を確認する。 2教師の範読を聞く。 ・初めて知ったことや不思議に思ったことを話し合う。 3ライオンとしまうまの赤ちゃんの様子や成長を比べながら読み取る。 ・「生まれたばかりのようす」「大きくなっていくようす」を観点ごとにまとめる。 ・お母さんとの違いや、成長過程での親子のつながりについて確認する。 ・どのような違いがあるのか、気づいたことを発表する。 4他の動物の赤ちゃんについても違いを調べる。 ・P88-89の「もっと よもう」を読み、比べる観点を確認する。 ・他の動物の赤ちゃんについて書かれた本を読み、生まれたばかりの様子や大きくなっていく様子で気づいた違いを発表し合う。 5学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） ・読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ） ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（C(1)カ） 【態】文章の内容を比べながら粘り強く読み、学習の見通しをもって、本から得たことを友達に知らせようとしている。
1月	ことばって、おもしろいな			
	ものの 名まえ 6時間（知・技④、話・聞②） ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づくことができる。（知・技(1)オ） ○互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。（思・判・表A(1)オ） ■尋ねたり、応答したりする。	1 2 ㄱ 3 4 ㄱ 5	1学習の見通しをもつ。 ・買い物をしたときの経験を出し合い、店での言葉のやり取りに関心をもつ。 ・P94-95を見て、「ものの名まえをあつめておみせやさんごっこをしよう」という学習課題を確認する。 2教材文を読み、物の名前には上位語と下位語があることを理解する。 ・教材文に出てくる物の名前を上位語と下位語に整理してノートに書く。 ・身の回りの物の名前を集め、上位語と下位語に分けてノートにまとめる。 ・集めた言葉を発表し合う。 3「おみせやさんごっこ」の準備をする。 ・2で発表し合った身の回りの物の名前を参考にして、開きたいお店ごとにグループを作る。 ・上位語で看板やポスターを、下位語で品物カードを作る。 ・教科書を参考にして、グループごとに「お店の人」	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づいている。（(1)オ） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。（A(1)オ） 【態】積極的に言葉の上位語と下位語に関心をもち、学習の見通しをもって、言葉を集めて「おみせやさんごっこ」をしようとしている。

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
		6	と「お客さん」の話し方を練習する。 4 「おみせやさんごっこ」をする。 ・「お店の人」と「お客さん」の言葉のやり取りを楽しむ。 5 学習を振り返る。	
2月	わらしべちょうじゃ 1 時間（読①） ◎昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。（知・技(3)ア） ○文章を読んで感じたことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ■昔話の読み聞かせを聞く。 ☆我が国の文化や生活に親しみ愛着をもたせる題材（道徳） ☆いろいろな昔話を読む活動（図書館活用）	1	1 知っている昔話を出し合う。 2 教科書の挿絵を見ながら「わらしべちょうじゃ」の読み聞かせを聞く。 3 おもしろかったところや、気に入ったところについて友達と感想を伝え合う。 ・P126 を参考に、読み聞かせやその他の楽しみ方について話し合ってもよい。	【知・技】昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。（(3)ア） 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことを共有している。（C(1)カ） 【態】積極的に昔話の読み聞かせを楽しみ、これまでの学習をいかして内容や感想を共有しようとしている。
2月	かたかなの かたち 3 時間（知・技②、書①） ◎片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■片仮名の言葉を使って文を書く。	1 2 3	1 平仮名と形の似ている片仮名や、似た形の片仮名を区別して書く。 ・一字ずつ形を確認しながらノートに書く。 ・P139-140 の「ひらがなと かたかな」を見て、他にも似ている形の字を探してノートに書く。 2 間違えやすい片仮名を練習する。 ・P99 を見て、間違えやすい文字・長音・拗音の書き方を理解し、形に気をつけてノートに書く。 3 片仮名で書く言葉を集める。 ・見つけた片仮名の言葉を使って文を書く。 4 書いた文を発表し合う。	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】進んで形の似ている字を探し、これまでの学習をいかして片仮名の言葉を使った文を書くようとしている。
2月	ことばあそびを つくろう 6 時間（知・技①、書⑤） ◎身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■言葉遊びを作る。	1 2 3 4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・教材文を見て、「ことばクイズをつくって、みんなできあおう」という学習課題を理解する。 2 P100-101 の□にあてはまる言葉を考える。 ・「いる」「ある」をヒントにして言葉を見つける。 ・できあがった文を声に出して読む。 3 「ことばクイズ」を作る。 ・（ ）の言葉の中に隠れている□の言葉を考える。 ・グループで相談し合う。 ・「いる」「ある」の使い分けに注意しながらクイズカードを作る。 4 クイズ大会をする。 ・グループごとにブースを作り、クイズを出し合う。 5 学習を振り返る。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ） ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。（(3)イ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】身近なことを表す語句に積極的に関心をもち、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。
2月	ふたりで かんがえよう これは、なんでしょう 4 時間（話・聞④） ◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。（思・判・表A(1)オ） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な	1 2 3	1 学習の見通しをもつ。 ・教師から問題を聞いたり、教材文を読んだりして、クイズの大まかなルールを把握する。 ・「ふたりでもんだいをかんがえて、クイズたいかいをしよう」という学習課題を確認する。 2 二人組を作り、クイズの問題を考える。 ・問題にするものを決める。 ・決めたものの特徴（色や形、働き、様子など）をノートに書き出す。 3 問題の出し方を話し合う。	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	事柄を選ぶことができる。(思・判・表 A(1)ア) ■二人で相談し、考えをまとめる。	4	・動画を見て問題の出し方を確かめ、話し合いのしかたを学ぶ。 ・書き出したことをどのような順番で言うのかを決め、練習する。 4「これは、なんでしょう」クイズ大会をする。 ・二人組で出題したり、答えたりする。 ・解答者は、出題者の二人に問題の出し方について感想を伝える。 5学習を振り返る。 ・二人で感想を出し合い、話し合うときにどのようなことが大切か、気づいたことを出し合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ) 【態】粘り強く二人で話し合い、学習課題に沿って協力してクイズを作ろうとしている。
2月 ～ 3月	よんで かんじた ことを はなそう ずうっと、ずっと、大すきだよ 8時間(読⑧) ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表 C(1)カ) ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表 C(1)オ) ■読んで感じたことを伝え合う。 ☆生命を尊重する心を育てる題材(道徳)	1 2 3 ～ 4 5 ～ 7 8	1学習の見通しをもつ。 ・家でペットを飼っている児童に、ペットとの関わりを紹介してもらう。 ・「おはなしをよんでかんじたことをはなそう」という学習課題を確認する。 2お話を読んで思ったことを話す。 ・教師の範読を聞いて、「いいな」「すきだな」「どうしてかな」など、心に残ったことを出し合う。 ・出し合った感想をもとに、みんなで話し合いたいことを決め、これからの学習計画を立てる。 3お話の筋を押さえる。 ・「エルフ」がどんなふうに変わっていったか確かめる。 ・「ぼく」が、「エルフ」のことが大好きだと分かるところを見つける。 4学習計画に沿って話し合う。 ・2で決めた話し合いたいことについて、考えを出し合う。 ・「ぼく」が、なぜ「となりの子」から子犬をもらわなかったのかを、自分に引きつけて考える。 ・このお話を読んで、最も心に残ったことを友達と話す。 5学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【態】友達の考えや感想を積極的に知ろうとし、学習の見通しをもって、読んで感じたことを伝え合おうとしている。
3月	にて いる かん字 3時間(知・技②、書①) ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。(思・判・表 B(1)ウ) ■似ている漢字を使って文を書く。	1 2 3	1似ているところに気をつけて漢字を書く。 ・P120の漢字を見比べ、どこが似ているか出し合う。 ・似ているところと異なるところを確かめながら、ノートに書く。 2書き順に気をつけて漢字を書く。 ・P121の漢字を、書き順を確かめながらノートに書く。 3漢字を使って文を作る。	【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、文を書き表している。(B(1)ウ) 【態】進んで漢字の形に注意し、これまでの学習をいかして楽しみながら文を書こうとしている。
3月	おもい出して かこう いい こと いっぱい、一年生 10時間(書⑩) ◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(思・判・表 B(1)イ)	1	1学習の見通しをもつ。 ・写真やアルバムを見ながら1年間を振り返り、心に残っていることを話し合う。 ・教材文を読み、学習の手順を知る。 ・「おもいだして、『1年生のおもいで』をかこう」という学習課題を確認する。	【知・技】敬体で書かれた文章に慣れている。(1)キ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめた

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	○敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ○経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア) ■経験したことを報告する文章を書く。 ☆生活を明るくする態度を育てる題材(道徳) ☆これまでの活動の様子の写真や動画を端末に保存している場合は、それらも参照(ICT活用)	2 3 4 8 9 10	2 1年間の出来事を振り返る。 ・P123を参考に、「がんばったこと」「できるようになったこと」などの観点から思い出す。 ・写真を見たり、家の人に聞いたりする。 3 書きたい事柄を選ぶ。 ・一つ一つの事柄を思い出し、書きたい内容を集めてメモを作る。 4 メモを基に、文章を書く。 ・P124の作例を読み、書き方を考える。 ・順番を考えながらメモを並べ替え、文章にする。 ・様子を表す絵を描いたり、写真を貼ったりする。 5 推敲する。 ・句読点や文字の間違いを見直す。 ・内容の分かりにくいところはないか、読み直す。 6 書いたものをまとめて冊子を作る。 ・時間順に並べるなど、構成を工夫する。 7 冊子を読み合う。 ・友達の思い出についての感想や、書き方のよかったところを伝え合う。 ・家の人に読んでもらい、感想をもらう。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」で身につけた力を押さえる。 9 1年間の学習を振り返り、頑張ったことを思い出して P136 の表彰状に書く。 ・1年生の初めに書いた字と比べ、自分の成長を確認する。	りして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ) 【態】事柄の順序に沿って構成を粘り強く考えながら、これまでの学習や経験をいかして1年生の思い出を伝える文章を書こうとしている。